

社会総ぐるみによる人づくりの「合言葉」

「育もう 地域の愛で 子どもの未来」～ 大人が子どもの手本となり、みんなで人間力を高めます ～

◇ 充実した夏休みを ◇ 夏休み: 7月20日～8月28日

明日から子供たちが楽しみにしている夏休みが始まります。



☆普段読めないような分厚い本や長い時間をかけての研究・作品作りに挑戦する夏休み
 ☆家族はもちろん、地域の方にも進んで気持ちのよい挨拶をする夏休み

を目指して、一人一人がめあてを立て、充実した夏休みを過ごしてくれることを願っています。

学校から配付されました「夏休みの過ごし方」や「宮っ子ダイアリー」などを参考に、家庭での望ましい学習や生活の習慣を継続し、成就感や達成感の味わえる夏休みになることを期待しています。『約束したことが自分から進んでできた』そんな場面を見付けたりすかさず認め、励ましの声を掛けてあげてください。更なるステップアップへの大きなエネルギーとなるはずです。夏休み明けの8月29日(木)には、心身ともにたくましくなって元気に登校してくれること願っています。なお、8月13日(火)～16日(金)はお盆期間の学校閉庁日となり職員は終日不在となりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。また、夏休み明けの8月29日(木)は1年生が4時間授業、13時50分頃下校、2年生以上は5時間授業、14時35分頃下校となります。

◇ 夏休みを迎える会 ◇ - 6年 代表児童の作文発表から -

6年生になって頑張ったことの発表です。(抜粋して紹介いたします)

- 1つ目は、元気にあいさつをすることです。先生や友達、近所の人とあいさつをすると、とても明るい気持ちになることが分かりました。これからも続けていこうと思います。
- 2つ目は、最高学年として、なかよしタイムやクラブ活動などでみんなをまとめることです。どうすれば、しっかりみんなをまとめることができるか考えて、工夫をしながら進めることができました。
- 3つ目は勉強です。6年生になると内容が難しくなりました。私は、その日に習った内容を復習したり、自分が苦手と思う単元は、繰り返し復習をしたりしました。すると、今まで苦手と思っていた計算などもスラスラ解けるようになりました。だから、これからも苦手と決めつけずに挑戦して、繰り返し復習をしていきたいと思いました。

これらのことを生かして「これからも学校生活を楽しんでいきたい」と、発表は締めくくられました。努力や工夫の積み重ねが分かり、これからの生活への意欲も感じられる発表でした。

6年生は、小学校最後の年です。「挑戦しよう」「努力しよう」「頑張ろう」と思えることを見付け、一人一人にとって充実した1年になるよう応援しています。

◇ 宇都宮市小学校水泳競技大会 ◇



Bブロック入賞者の記録です

5年女子50m自由形 1位(1位) 32秒34

5年女子50m平泳ぎ 2位(5位) 50秒03

6年男子50m自由形 4位 37秒98

※ () 内は宇都宮市全体の順位です

入賞
おめでとう!

7月上旬、宇都宮市内の小学校を4ブロックに分けて「第54回小学校水泳競技大会」が「かわちドリームプール」を会場に行われました。7月9日(火)に開催されたBブロック大会には、

本校から5・6年生10名が参加しました。

子供たちは、限られた時間の中ではありましたが、練習に励み、本番に向けて努力を重ねてきました。当日も大きな拍手に後押しされ、選手全員が堂々と泳ぎ切ることができました。挑戦しようという気持ちと練習から本番まで頑張りぬいた子供たちに、大きな拍手を送りたいと思います。保護者の皆様には、お子様の体調管理と子供たちへのたくさん応援をありがとうございました。

◇ 水の事故を防ぐ ◇ - 保護者の皆様、ご協力ありがとうございました -



今年度の水遊び、水泳の授業では、保護者の方にプールサイドからの見守りをお願いしましたところ、たくさんの方にご協力をいただくことができました。ありがとうございました。毎年のように、各地で、プールを含めた水の事故が発生しております。学習に臨むにあたっては、保護者の皆様のご協力を得て事前の健康観察を十分に行い、授業中はバディを組み、こまめに安全確認を行っておりますが、子供たちをより多くの目で見守ることができることで、楽しいプールでの活動をより充実させることができました。連日、暑い中での見守りにご協力いただきましたことに感謝いたします。

- 5年生・6年生 水難事故防止の講習会実施 -



7月12日(金)、5、6年生が、水難事故防止の講習会に参加しました。本来は、プールでの着衣水泳を予定していましたが、悪天候のため体育館での講習となりました。スポーツクラブのインストラクターを講師にお招きし、専門的な立場から、水の事故から身を守る心構えや手立てを学びました。

まず、一番大切なこととして『自分だけは大丈夫』と思わないことを学びました。そして、水の中に誤って落ちてしまったら、「泳ぐよりも浮くことを考える」こと、陸地から近いところであれば、「クロールよりも平泳ぎが適している」ことなどの話を聞き、服に空気をため込む方法や平泳ぎの手の動かし方などを練習しました。また、溺れている人がいても、自分で助けにはいかず、大人を呼ぶか近くにペットボトルがあれば投げ入れるなどの話も聞くことができました。

◇ 5年生が「のざわ特別支援学校」を訪問しました ◇



5年ぶりに「のざわ特別支援学校」の小学生との交流会を実施することができました。5年生の子供たちは、歌に合奏にダンスに、明るく元気に発表し、支援学校の子供たちにも喜んでもらうことができました。支援学校の子供たちからは校歌のプレゼントがありました。頑張っている様子に、5年生の子供たちもじっと耳を傾けます。その後、少人数のグループに分かれて、ドレミの歌に合わせて車いすを押したり握手をしたりと、子供たち同士が触れ合う時間も取ることができました。何人かの5年生に聞いてみると、「楽しかった」「またやりたい」との言葉が返ってきました。ほほえましい光景が随所に見られた交流会となりました。支援学校の先生方には、5年生の緊張をほぐすようにお声掛けをいただいたり、丁寧に誘導していただいたりと大変お世話になりました。子供たちの心を豊かに耕す貴重な体験活動となりました。

◇ スマホ・ケータイトラブル防止 ◇

夏休み期間中は、インターネットを利用する機会も増え、ネットトラブルが起きやすい時期と考えられます。先日「スマホ・ケータイ 宮っ子ルール共同宣言 ver.2」を改めて配信いたしました。長期休みを前に、スマホやケータイの使用ルールを確認するなどして、今一度、安全・安心なインターネットの利用について親子、家族で話し合ってみてください。

誤った使い方により被害に巻き込まれたり、ゲーム等へののめり込みにより健康を害したりするなど、インターネットの利用には様々な危険が潜んでいることは以前から指摘されているところです。これらのすべてについて、使い方を規制することのみで回避することは不可能です。ICTの活用が進み、情報収集や学び合い、創造活動、コミュニケーションのツールとして、インターネットは子供たちの学習や生活になくてはならないものとなっています。これからは、社会の一員として、正しい判断のもと、他者を思いやりながら責任をもってインターネットを利用できる力を育てていくデジタル・シティズンシップ教育の考え方が大切です。そして、学校では先生と子供たちが、家庭では親子や家族で、スマホやケータイの使い方について対話を継続させていくことでそういった力は培われていきます。

(参考)「家庭で学ぶデジタル・シティズンシップ～実践ガイドブック～(総務省)」

